

令和5年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果及び授業改善のポイント

授業改善のポイント

【調査目的】

- 1 児童の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教職員の指導力の向上を図り、学力向上施策に資する。
- 2 教育課程や指導方法等にかかわる課題・解決策を明確にし、児童一人一人の学力の定着と伸長を図る。
- 3 保護者及び市民に対し、本校児童における学力の定着状況について、説明責任及び結果責任を果たす。

【調査学年】

- 第6学年 88名

【調査日】

- 令和5年4月18日（火）

【調査の内容】

- 1 教科に関する調査〈選択式・短答式・記述式の3種類〉
 - ・国語
 - ・算数
- 2 児童質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

目次

| | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 国語の調査結果 | 1 |
| 2 | 国語の問題と分析・授業改善のポイント | 3 |
| 3 | 算数の調査結果 | 5 |
| 4 | 算数の問題と分析・授業改善のポイント | 7 |
| 6 | 児童質問紙調査結果の概要と指導改善のポイント | 9 |
| 7 | 各教科等における授業改善のポイント | 裏表紙 |
| 8 | カリキュラム・マネジメント | 裏表紙 |

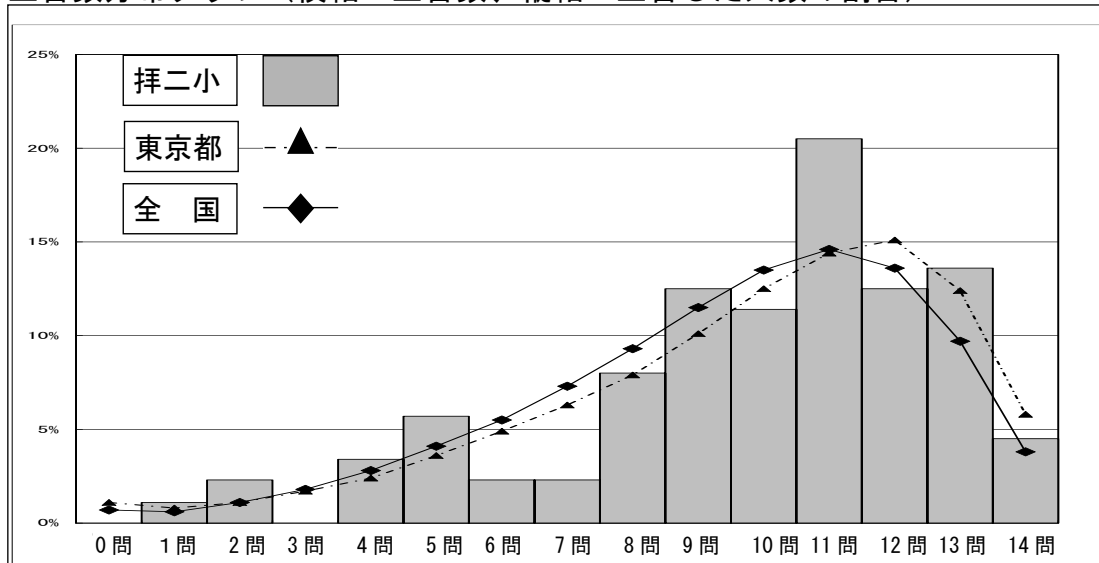
令和5年 8月
昭島市立拝島第二小学校
校長 小瀬 和彦

1 国語の調査結果

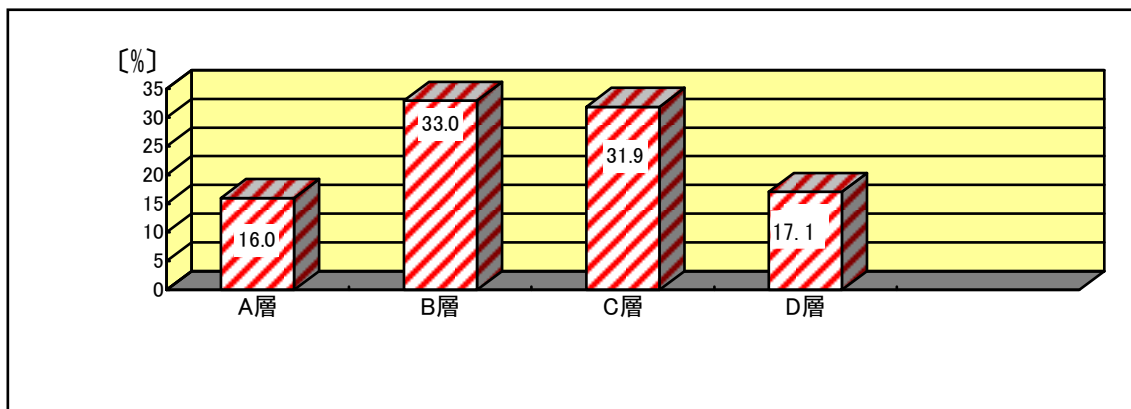
(1) 国語の調査結果の概要

| | | | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 平均正答率〈%〉 | 本校 70.0% | 東京都 69.0% | 全国 67.2% |
|----------|----------|-----------|----------|

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

| | | | 対象問題数 (14 問) | 平均正答率 (%) |
|-----------|---------------|---------------------|--------------|-----------|
| 全体 | | | 14 | 70.0 |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 5 | 74.8 |
| | | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 2 | 61.4 |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 0 | |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 | 78.4 |
| | | B 書くこと | 1 | 28.4 |
| C 読むこと | | 3 | 74.2 | |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 7 | 70.9 | |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 69.5 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | |

(3) 国語の設問ごとの正答率と分析

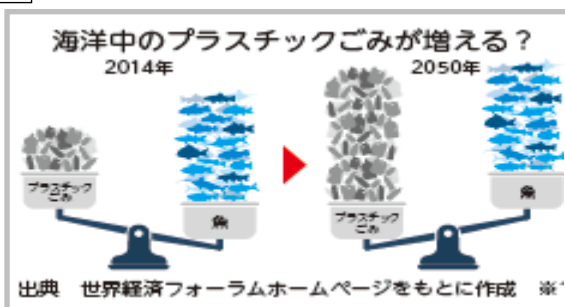
| 問題番号 | 問題の概要 (出題の趣旨) | 本校 | | 全国 (公立) | |
|----------------|---|-------|-------|---------|-------|
| | | 正答率 | 無解答率 | 正答率 | 無解答率 |
| 1一 | 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する。(原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる。)[情報の扱いに関する事項、知識・技能] | 65.9% | 0.0% | 64.7% | 1.8% |
| 1二 | 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。(図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。)[書くこと、思考・判断・表現] | 28.4% | 4.5% | 26.7% | 7.1% |
| 1三 (1) ア | 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。いがい(学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。)[言葉の特徴や使い方に関する事項、知識・技能] | 48.9% | 5.7% | 52.8% | 4.8% |
| 1三 (1) ウ | 【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す。きかん(同上) [言葉の特徴や使い方に関する事項、知識・技能] | 79.5% | 5.7% | 72.6% | 6.7% |
| 1三 (2) イ | 【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す。くらべて(同上) [言葉の特徴や使い方に関する事項、知識・技能] | 93.2% | 1.1% | 93.1% | 1.0% |
| 1四 | 【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する。 [言葉の特徴や使い方に関する事項、知識・技能] | 89.8% | 1.1% | 79.8% | 2.0% |
| 2一 | 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。(目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。) [読むこと、思考・判断・表現] | 89.8% | 0.0% | 90.0% | 1.2% |
| 2二 | 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。(目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。)[読むこと、思考・判断・表現] | 73.9% | 0.0% | 67.4% | 1.4% |
| 2三 | 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。(情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。) [情報の扱いに関する事項、知識・技能] | 56.8% | 0.0% | 62.0% | 1.6% |
| 2四 | 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。(文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。)[書くこと、思考・判断・表現] | 59.1% | 5.7% | 62.0% | 1.6% |
| 3一 (1) | 【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、ありますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する。(必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる。) [話すこと・聞くこと、思考・判断・表現] | 79.5% | 1.1% | 73.6% | 3.7% |
| 3一 (2) | 【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問した理由として適切なものを選択する。(同上) [話すこと・聞くこと、思考・判断・表現] | 81.8% | 1.1% | 74.0% | 4.1% |
| 3二 | 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。(目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。) [話すこと・聞くこと、思考・判断・表現] | 73.9% | 13.6% | 70.2% | 14.3% |
| 3三 | 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。(日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる。) [言葉の特徴や使い方に関する事項、知識・技能] | 62.5% | 4.6% | 57.6% | 9.5% |

(3) 国語 授業改善のポイント

- ◇ 課題 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に課題がある。
- ◇ 改善のポイント
表現を工夫するには、次の4点のステップを踏むことが重要。①「相手や目的に応じて、話（書く）の内容に合う資料を用意する」→②「目的や意図に応じて、資料を提示するタイミング（場面）を検討する」→③「目的や意図に応じて、資料を提示しながら話す（書く）内容について検討する」→④「場面や相手を意識して、話し方について検討する。」
- ◇ 場面「自分たちでできる昭島市民科（SDGs）の取組を提案しよう。（必要な情報を集め、提案内容を検討し話の構成を考える。資料を効果的に活用しながら話す。）」
- ◇ **③目的や意図に応じて、資料を提示しながら話す内容を検討する**
- ◇ 具体的展開



資料を使って、海洋中のプラスチックごみが増えていることを伝えたいんだ。話す内容これでいいかな。



このままでは、この資料のとおり、海洋中のプラスチックごみの量が増えます。

【スピーチの一部】

世界では、毎年、プラスチックごみがたくさん海洋へ流出しています。



助言をもらう前



「この資料のとおり」って言っていたけれど、どういうことが分からなかったよ。

資料のどこに着目してほしいのか、説明を付け加えたらどうかな。

この資料の天びんの傾きやプラスチックごみの量の変化が示しているのとおり、2050年には海洋中のプラスチックごみの量が魚の量を上回ると言われています。

【スピーチの一部】

世界では、毎年、プラスチックごみがたくさん海洋へ流出しています。



助言をもらった後



③ 伝えたいことを踏まえ、資料を使って聞き手に着目してほしい部分を明確にし、その部分が何を表しているのかを聞き手に伝わるように説明することで資料をより効果的に活用できる。（改善のポイント③における留意点）

◇ 改善のポイントにおける留意点

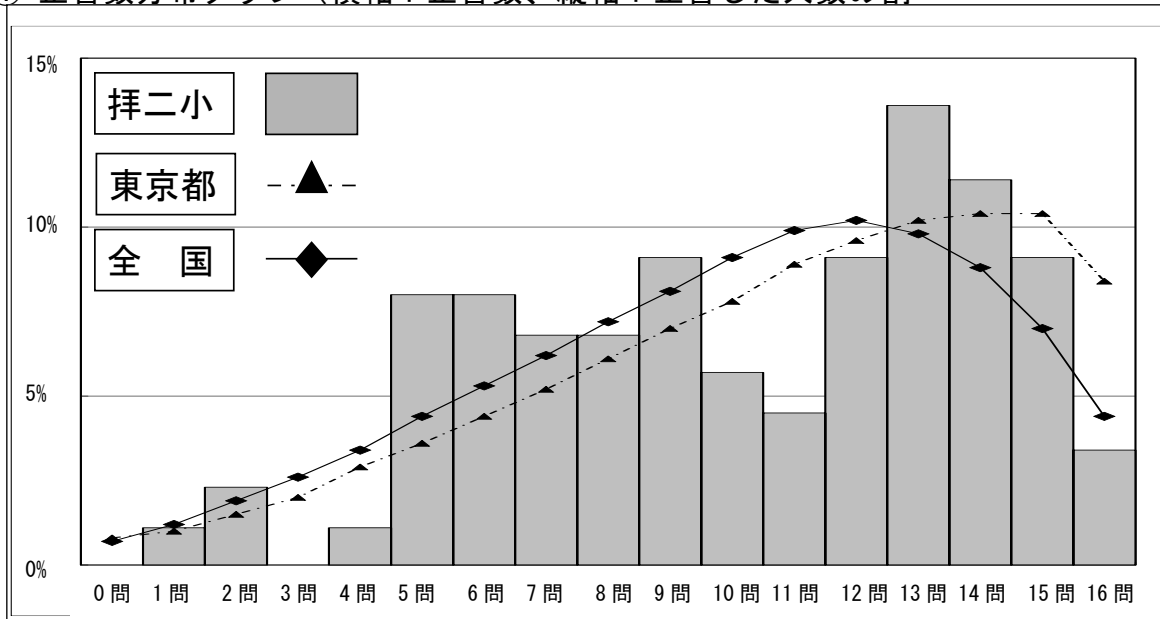
- ① 音声言語だけでは理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料の活用が考えられる。実際に用いる資料としては、相手や目的に応じ、必要な文言や数値などの引用、実物や画像、映像などの使用、図解したものや重要な語句の定義付けなどの明示が大切である。
- ② スピーチやプレゼンテーションをする際には目的や意図に応じて、より効果的な資料提示の順番やタイミングなどがあることを理解し自ら判断できるよう指導することが大切である。
- ④ 実際に発表する場面では、聞き手のうなずきや表情にも注意することが大切である。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子や聞き手の動画で撮影するなど振り返りをさせるなどの指導が重要である。

3 算数の調査結果

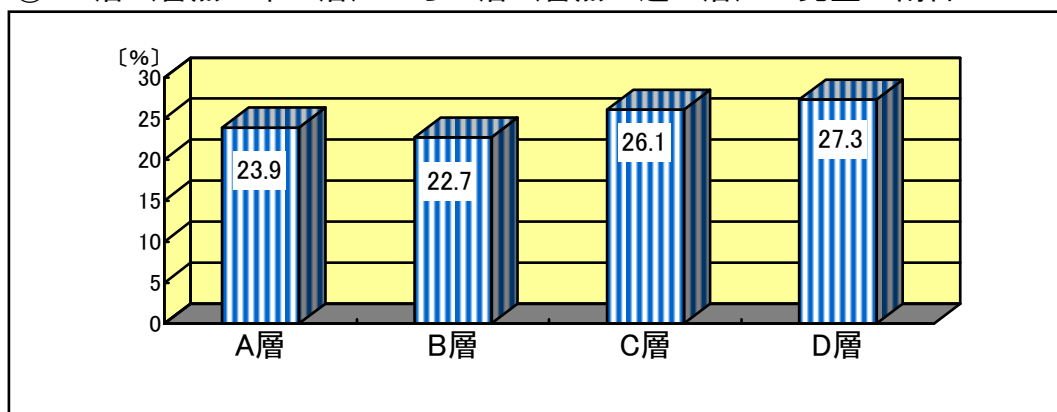
(1) 算数の調査結果の概要

| | | | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 平均正答率〈%〉 | 本校 64.0% | 東京都 67.0% | 全国 62.5% |
|----------|----------|-----------|----------|

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



2) 学習指導要領の領域と観点別結果

| | | 対象問題数(16問) | 平均正答率(%) |
|-----------|---------------|------------|----------|
| 学習指導要領の領域 | 全体 | 16問 | 64.0 |
| | A 数と計算 | 6 | 68.6 |
| | B 図形 | 4 | 50.0 |
| | C 測定 | 0 | |
| | C 変化と関係 | 4 | 71.0 |
| 評価の観点 | D データの活用 | 3 | 68.9 |
| | 知識・技能 | 9 | 69.8 |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 56.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | |

(3) 算数の設問ごとの正答率と分析

| 問題番号 | 問題の概要 | 本校 | | 全国(公立) | |
|------|--|--------------|-------------|--------------|-------------|
| | | 正答率 | 無解答率 | 正答率 | 無解答率 |
| 1(1) | 五脚の椅子を重ねたときの高さを求める。(伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる。) 【C 変化と関係、知識・技能】 | 89.8% | 0.0% | 93.5% | 0.8% |
| 1(2) | 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。(伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる。) 【C 変化と関係、思考・判断・表現】 | 93.2% | 0.0% | 88.5% | 1.0% |
| 1(3) | 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く。(伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答え式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。) 【C 変化と関係、思考・判断・表現】 | 48.9% | 2.3% | 55.6% | 3.4% |
| 1(4) | 全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する。(一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる。) 【A 数と計算、知識・技能】 | 86.4% | 0.0% | 80.6% | 1.2% |
| 2(1) | テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。(台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。) 【B 図形、知識・技能】 | 64.8% | 0.0% | 59.8% | 0.7% |
| 2(2) | テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。(正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。) 【B 図形、知識・技能】 | 86.4% | 0.0% | 87.2% | 2.9% |
| 2(3) | 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの④の角の大きさを書く。(正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。) 【B 図形、知識・技能】 | 34.1% | 0.0% | 24.9% | 3.7% |
| 2(4) | テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。(高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。) 【B 図形、思考・判断・表現】 | 14.8% | 1.1% | 20.8% | 4.0% |
| 3(1) | 2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ。(())を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。) 【A 数と計算、思考・判断・表現】 | 70.5% | 0.0% | 70.3% | 1.4% |
| 3(2) | 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。(示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる。) 【A 数と計算、思考・判断・表現】 | 56.8% | 1.1% | 56.7% | 4.0% |
| 3(3) | $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める。(加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかをみる。) 【A 数と計算、知識・技能】 | 67.0% | 0.0% | 72.4% | 2.5% |
| 3(4) | $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。) 【A 数と計算、思考・判断・表現】 | 53.4% | 1.1% | 47.6% | 3.9% |
| 4(1) | 示された基準量と比較量から、割合30%になるものを選ぶ。(百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。) 【C 変化と関係、知識・技能】 | 52.3% | 1.1% | 46.0% | 2.4% |
| 4(2) | 運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。(「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる。) 【A 数と計算・D データの活用、知識・技能】 | 77.3% | 2.3% | 75.7% | 4.3% |
| 4(3) | 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。(示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。) 【D データの活用、思考・判断・表現】 | 59.1% | 4.5% | 56.2% | 13.8% |
| 4(4) | 二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ。(二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。) 【D データの活用、知識・技能】 | 70.5% | 3.4% | 64.6% | 4.9% |

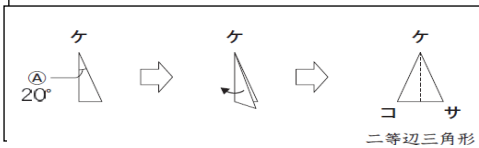
4 算数の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数2(3)(4)



私は(A)の角の大きさを 20° にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



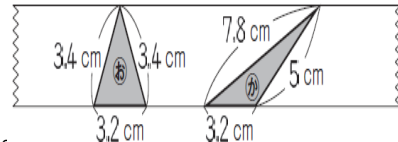
僕は、切って開いた三角形を正三角形にするために、(A)の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにきりました。



(3) 切って開いた三角形を正三角形にするには、(A)の角の大きさを何度にするにすればよいですか。答えを書きましょう。 30° (正答率 34.1%)

(4) 右の(お)と(か)の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。1つ選んで、そのわけを言葉や数を使ってかきましょう。

- 1 (お)の面積の方が大きい。
- 2 (か)の面積の方が大きい。
- 3 (お)と(か)の面積は等しい。 (3) (正答率 14.8%)
- 4 (お)と(か)の面積は、このままでは比べることができない。



三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。(お)と(か)の底辺は、どちらも 3.2 cm なので等しいです。(お)と(か)の高さは、テープの幅がどこも同じなので等しいです。だから、(お)と(か)の面積は等しいです。(正答率 18.1%)

【分析】本問は、それぞれ「正三角形の意味や性質について理解しているか」どうか、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか」どうかをみる問題であり、正答率は、34.1%、14.8%である。

実際の指導に当たっては、①「平面図形の意味や性質を数学的な活動を通して見出せるようにする」、②「図形を構成する要素などに着目して、基本的な図形の面積の求め方及び、その意味（なぜこのような求め方するのか）を発見させ、表現させる活動を通して、面積を求める公式の意味を指導していく必要がある。

(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数4(1)1(3)

(1) 30%について考えます。割合が 30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

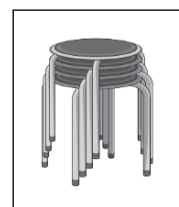
- | | |
|---------------------|-------------------|
| ア 100人をもとにした0.3人の割合 | イ 100人をもとにした3人の割合 |
| ウ 100人をもとにした30人の割合 | エ 10人をもとにした3人の割合 |
| オ 30人をもとにした1人の割合 | |

ウとエ (正答率 52.3%)

(4) いす4脚の重さをはかると、7kgでした。このいす48脚の重さは、何kgですか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

【求め方A】いすの数は、 $48 \div 4 = 12$ で、12倍になります。いすの数が12倍になると重さも12倍になるので、48脚の時の重さは、 $7 \times 12 = 84$ で、84kgです。【答え】84kg

【求め方B】いす1脚あたりの重さは、 $7 \div 4 = 1.75$ で、1.75kgになります。48脚のときの重さは、 1.75×48 で、84kgです。【答え】84kg



(正答率 48.9%)

【分析】本問は、「百分率で表された割合について理解しているか」どうか、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて記述できるか」どうかをみる問題であり、正答率は、52.3%と48.9%である。

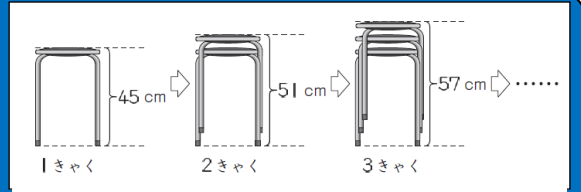
実際の指導に当たっては、①日常生活の場面と関連付けて「百分率で表された割合」を考察させること、②異種の二つの割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して目的に応じて比べたり、その結果を表現させたりする場面を意図的・計画的に設定する必要がある。

(3) 算数 授業改善のポイント

◇課題「伴って変わる二つの数量の関係を捉え、知りたい数量の大きさの求め方と答えや式を説明すること」に課題がある。〈変化や対応の特徴を考察すること〉

問題1 1きゃくのいす高さは45cmです。右のようにいすを重ねていくと高さが変わります。いすと高さの関係について考えます。

| | | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|---|-----|
| いすの数(きゃく) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ... |
| 高さ (cm) | 45 | 51 | 57 | 63 | A | ... |



高さは、いすの数に比例しているのかな。

いすの数が2倍になっても...



いすの数が きゃくから きゃくと2倍になっても、高さは cm から cm で2倍になっていません。

本校 93.2% 都 90.9% 国 88.5%

問題2 いす4脚の重さをはかると、7kgでした。このいす48脚の重さは、何kgですか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。



【求め方】いすの数は、 $48 \div 4 = 12$ で、12倍になります。いすの数が12倍になると重さも12倍になるので、48きゃくのときの重さは、 $7 \times 12 = 84$ で、84kgです。【答え】84kg

【求め方】1きゃくあたりの重さは、 $7 \div 4 = 1.75$ で、1.75kgになります。48きゃくのときの重さは、 $1.75 \times 48 = 84$ で、84kgです。【答え】84kg



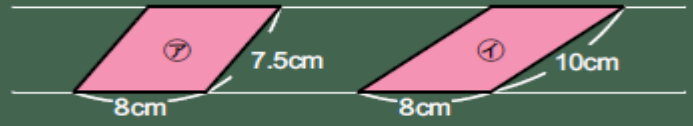
数直線 or 表を児童自ら作成・活用できるように！

本校 48.9% 都 61.7% 国 55.5%

◇課題「図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方から面積の大小を判断して、その判断の理由を表現すること」に課題がある。〈吟味・検討の場の設定〉



平行な2本の直線を使って、平行四辺形をつくりました。アとイの平行四辺形の面積はどうなりますか。言葉や数を使って説明しましょう。



平行四辺形の面積の公式は、底辺×高さです。

底辺と高さがそれぞれ等しければ面積は等しくなることが分かります。

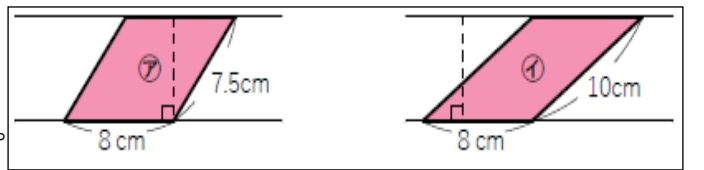


アとイの底辺は8cmなので等しいです。でも高さが分かりません。

高さは7.5cmと10cmではないですか。



底辺と高さは垂直になっています。だから、8cmの辺を底辺とすると、7.5cmや10cmは高さではありません。



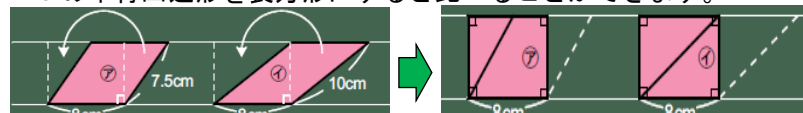
高さが何cmが分からないので、面積は比べられませんね。



高さが何cmが分からないと面積を比べることはできないのでしょうか。

二つの平行四辺形を長方形にすると比べることができます。

この長方形の縦の長さは元の平行四辺形の高さに、横の長さは、底辺になっています。...

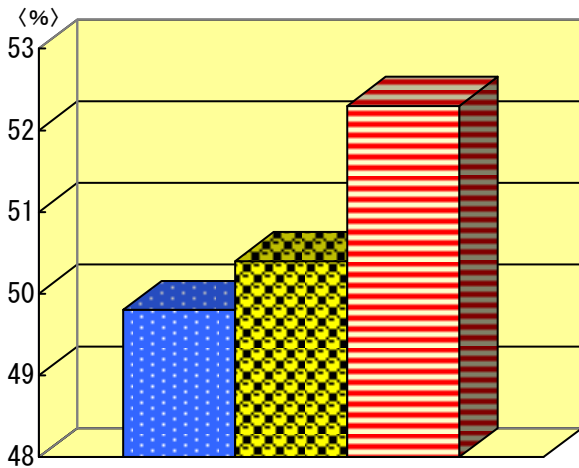


5 児童質問紙調査結果の概要と指導改善のポイント

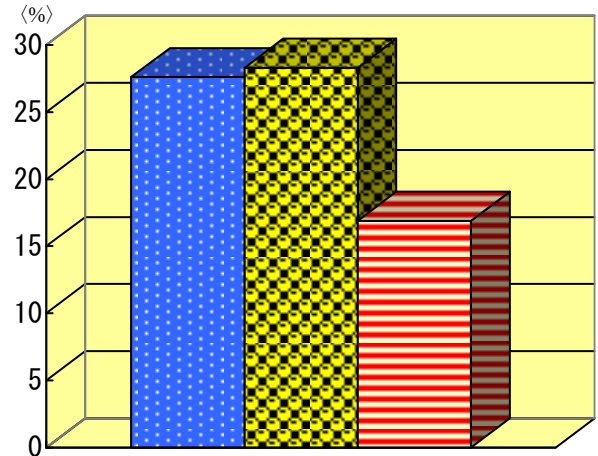
(1) 児童質問紙調査結果の概要

下記の棒グラフ（縦）は、児童質問紙において「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。*全国：■ 東京都 ■ 本校：■ 下記の棒グラフ（横）は、本校児童の「当てはまる■」、「どちらかといえば当てはまる■」、「どちらかといえば当てはまらない■」、「当てはまらない■」と、それぞれ回答した児童の正答率を表している。

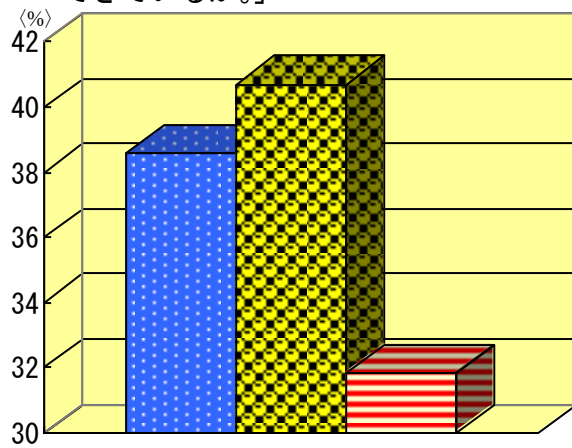
① 「学校に行くのは楽しいですか。」



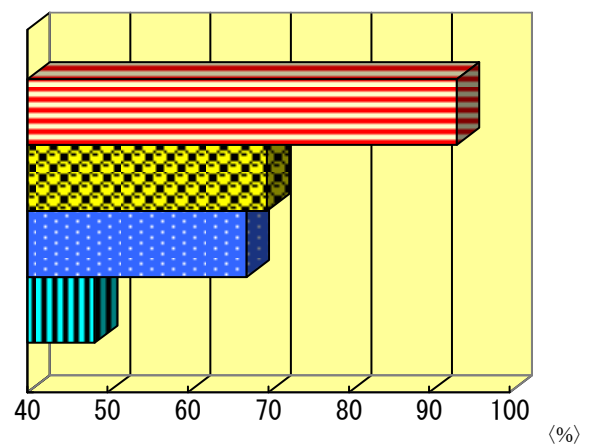
② 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。」



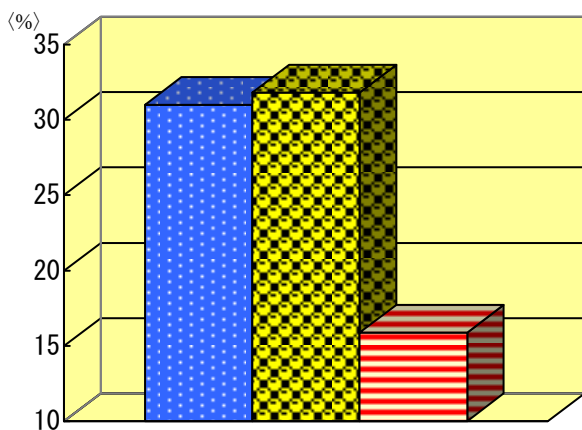
③ 「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか。」



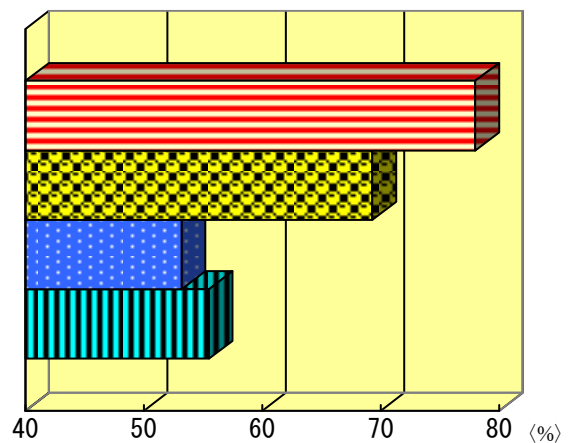
④ 「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか。」



⑤ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」



⑥ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」



(2) 児童質問紙調査の分析結果と授業改善のポイント

I 「①、②、③、④」の調査結果から

「学校に行くのは、楽しいと思いますか。」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合は 52.3(昨年 53.2)%で東京都より 1.9 ポイント（以下、「P」と表記する。）高く、全国より 2.5P 高い傾向にある。

しかし、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合は 18.2(昨年 29.9)%で、東京都より 15.7P 低く、全国より 13.8P 低い傾向にある。また、「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合は 31.8(昨年 54.3)%で、東京都より 8.9P 低く、全国より 6.8P 低い傾向にある。

「学校に行くのは、楽しい。」と実感している児童が多く、喜ばしい限りであるが、ここで課題となってくるのが、「なぜ学校は楽しいのか!」、「学校の楽しさ」の質的な問題が問われている。

「自分とは違う意見について考える」ことに対して楽しさを見出せないでいる児童や「友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりする」ことができないと考えている児童が多くいる。

学校の重要な機能のひとつとしてダイバーシティ（多様性）が挙げられる。ダイバーシティとは、この場合、価値観、ライフスタイル、見方や考え方、思考の違いを超えて、粘り強く話し合い、尊重し、合意形成をしていくことである。

また、これからの学校教育には、「自分とは異なる意見や考え、見方・考え方を学び合い」、「主体的・対話的で深い学び」を具現化することが求められている。

したがって、次の5点から、授業改善を図っていく必要がある。

◇ 「拝二小授業カスタンダード Ver.4」を踏まえ、情報交換・話し合い・討論（議論）・学び合い等の活動を設定する時に……

- ① 「スタンダード Ver.4」(裏面)に基づく言語活動を意図的・計画的に設定する。
 - ・体験から感じ取ったことを話し合う
 - ・調べた or 読み取った「事実」や「感じた・考えたこと」を話し合う
 - ・必要な情報を正確に取り出し、取り出した複数の情報を比較・関連付けて話し合う
 - ・互いの考えや見方・考え方を話し合い、自ら・集団の考えや見方・考え方を発展させる
- ② 「何のために行うのか」〔目的の明確化〕
- ③ 「何について行うのか」〔対象（内容）の明確化〕
- ④ 「どのように行うのか」〔方法の明確化〕
- ⑤ 「行ったことで、どのようなことが得られたのか、得られなかったのか。」
「それは、なぜか。」〔成果・課題の明確化、要因分析〕

II 「⑤、⑥」の調査結果から

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる。」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合は 15.9(昨年 27.3)%で東京都より 15.9P 低く、全国より 15.1P 低い傾向にある。

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる。」とは、「拝二小授業カスタンダード Ver.4」に位置付けられた「振り返り」のことである。この数値及び⑥のグラフ結果から、『振り返り』が形骸化している状況にあると捉えることができる。

したがって、次の点から、授業改善を図っていく必要がある。

◇ 「拝二小授業カスタンダード Ver.4」における「振り返り」の場面において、上記「I⑤」を踏まえ、児童が意図的・計画的に「振り返り」ができるような場面を設定する。

6 各教科等における授業改善のポイント 本年度の重点

- (1) 各教科等の授業・朝学習において「読み解く」段階を意図的・計画的に設定する。
 - ① 複数の「連続テキストと非連続テキスト」から目的に応じた情報を正確に取り出す場面
 - ② 取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る場面（図示・マーキングによる情報相互の関係を表示）
 - ③ 読み取った内容の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する場面
- (2) 各教科等の授業・朝学習と国語科
 - I 「書くこと」の場面と「話すこと・聞くこと」の場面とのカリキュラム・マネジメント（クロス・カリキュラム）＋10チャレの充実を図る。
 - ① 題材の設定（→情報の収集→内容の検討） ② 構成の検討（構成案の作成→伝え合って→検討する→構成の確定） ③ 考えの形成・記述1（構成にしたがい、考えを記述〈下書き〉→伝え合って→検討する） ④ 考えの形成・記述2（説得力のある文章〈理由・根拠〉→伝え合って→検討する） ⑤ 推敲（伝え合って→推敲する） ⑥ 共有
 - II 「話すこと・聞くこと」（発表に向けての「表現の工夫」）の場面と「書くこと」の場面とのカリキュラム・マネジメント（クロス・カリキュラム）を図る。（p4.参照）
次の4点のステップで指導すること。
 - ① 「相手や目的に応じて、話（書く）の内容に合う資料を用意する」→②「目的や意図に応じて、資料を提示（掲示）するタイミング（場面）を検討する」→③「目的や意図に応じて、資料を提示しながら話す（書く）内容について検討する」→④「場面や相手を意識して、話し方について検討する。」
- (3) 単分量当たり大きさ、基準量・比較量・割合の意味理解できるよう具体的に指導する。
- (4) 課題：①「平面図形の意味や性質を数学的な活動（事象を数理的に捉え、操作的活動を通して、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること）を通して見出せるようにする」、②「図形を構成する要素などに着目して、基本的な図形の面積の求め方及び、その意味（なぜこのような求め方するのか）を発見させ、表現させる活動を通して、面積を求める公式の意味を」指導していく必要がある。
- (5) 導入時に「見通し（見積り、仮説、予想〈理由〉）」をもたせること、終末時に「ふりかえり」をさせる指導を徹底する。
- (6) 「実験結果を表などに整理し、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理し説明する」場面を意図的・計画的に設定する。
- (7) 「拝二小授業カスタム2Over.4」に則った授業の徹底を図る。（言語活動・振り返り）
- (8) 今後、より一層、「思考力・判断力・表現力等」の向上を図るための手づくりテスト及び、論文問題を出題し、評価・改善を実施するなどPDCAサイクル化を図る。

7 カリキュラム・マネジメント

☆ 学校経営グランド・デザイン⇔教育課程⇔指導計画⇔週ごとの指導計画の、両方向からのPDCAサイクル化を図り、各学年・専科担当（横串）及び教科担当（縦串）が年間指導計画にチェック（朱を入れ修正）する。

◇ 改善の視点

- ① 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力について
 - ② 「何を学ぶのか」学習（指導）内容（学ぶ意義）・教育課程の編成
 - ③ 「どのように学ぶのか」学習（指導）方法・指導計画の作成
 - ④ 「何が身に付いたのか」学習評価
 - ⑤ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」発達を踏まえた指導
 - ⑥ 「実現するために何が必要か」必要な方策
- ※ 「クロスカリキュラムにできるか」、検討・改善